

## 令和2年度長崎県立諫早農業高等学校 学校評価表 総括評価表

<b>教育方針</b>	長崎県教育方針を基に、高等普通教育と農業・家庭に関する専門的知識・技能を施し、地域文化・産業の発展に貢献し、国際社会を生きる心身ともに健全な職業人を育成する。
<b>教育目標</b>	(1) 基礎的・基本的知識及び技能の習得と定着を図り、社会に必要な主体的に学ぶ態度や思考力・判断力・表現力などの能力を育成する。 (2) 農業や環境、地域社会に関する学習を深め、生命や自然、郷土を愛する心や自他の尊重、社会連帯の精神の涵養と共生社会に必要な能力を育成する。 (3) 「食育教育」や健康・安全教育への取り組みを推進し、心身ともにたくましく生きるための健康や体力、安全で快適な生活を送ろうとする態度を育成する。
<b>本年度の努力目標</b>	1. 生徒や保護者、地域や時代のニーズに対応した特色ある教育課程を編成し、生徒の多様な進路に対応できる学習機会を保障する。 2. 学習内容や教材、指導方法の創意工夫を図り、基礎学力の定着や技能の習得・向上に努めるとともに資格取得を推進する。 3. 教職員の共通理解のもと全ての教育活動とおして道徳性の涵養に努める。 4. 集団生活や体験活動、学校行事の充実を図り、自主性や協調性、コミュニケーション能力などの育成に努める。 5. 基本的生活習慣や倫理観、規範意識等に関する指導を徹底し、不易で普遍的な価値観の育成に努める。 6. インターンシップやボランティア活動の充実を図り、望ましい職業観や勤労観の育成に努める。 7. 学年、学科、進路指導部の連携を強化し3年間を見通した系統的な指導とおして進路実現に繋げる。 8. 心身の健康や安全に関する指導を徹底し、部活動の推進を図る。 9. 専門教育における新しい取組や新技術の導入を積極的に推進するとともに農業教育とおして科学性、社会性、指導性を養成する。 10. 地域の保育園や小・中学校、特別支援学校等と連携を強化し施設設備を開放するとともに学校に対する理解を深め、開かれた学校づくりを推進する。 11. 望ましい教育条件の整備充実に努める。

○評価基準は、次の4段階（1～4）を基本として各目標毎に作成する。

4：十分達成している。 3：おおむね達成している。 2：どちらかという達成されていない。 1：ほとんど達成されていない。

### 1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価

評価項目	具体的項目	担当	目 標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	中間評価	総括評価
学校経営	教育目標の明確化	教務	教育目標を学校内外に明確に示し、教職員間の相互理解と保護者や地域の理解と協力を得る。	教育目標をPTA総会で説明するとともに、諫農ダイジェストを配布して理解を深め、HPやを使って広報に努める。	教育目標の広報活動を認めている保護者が80%以上であった。	4	年度末に実施
					教育目標の広報活動を認めている保護者が70%以上であった。	3	
					教育目標の広報活動を認めている保護者が60%以上であった。	2	
					教育目標の広報活動を認めている保護者が60%未満であった。	1	
							R 1 ○

### 2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体的項目	担当	目 標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	中間評価	総括評価
(1) 教科指導	基礎学力の向上	教務	基礎基本の徹底と主体的な学習習慣の定着を図り、分かる授業・学力の身につく授業を展開する。	各授業において学習の手引きを活用し、生徒に見通しを持たせられた学習をさせ、全体における学年末の欠点保持者数を5名以下にする。	学年末成績における欠点保持者数が、全校生徒の中で5名以下だった。	4	年度末に実施
					学年末成績における欠点保持者数が、全校生徒の中で7名以下だった。	3	
					学年末成績における欠点保持者数が、全校生徒の中で10名以下だった。	2	
					学年末成績における欠点保持者数が、全校生徒の中で11名以上だった。	1	
							○ 学年末終了後

評価項目	具体的項目	担当	目 標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	中間評価	総括評価		
(2) 特別活動	農業クラブ活動の充実	農ク	各種委員会における生徒の活動を活発にする。	評議委員会・各種委員会・部長会・各種行事における実行委員会等を年間10回以上実施し、生徒の自主的・自治的活動を促し、各種活動を活発にして校風の向上に努める。	10回以上実施し、生徒の社会性や指導性の向上につながった。	4	年度末に実施	○	
					8回以上実施し、生徒の社会性や指導性の向上につながった。	3			
					5回以上実施し、生徒の社会性や指導性の向上につながった。	2			
					4回未満であった。	1			
		部活動を一層活発化させ、各種大会において好成績を残せるよう努める。	国体・インターハイ・県高総体・新人戦等の大会において、4部以上がベスト4入賞をめざす。(文化部も運動部に準ずる)	ベスト4以内の成績を取めた部が4部以上であった。	4	開催されず	○		
				ベスト4以内の成績を取めた部が3部以上であった。	3				
				ベスト4以内の成績を取めた部が2部以上であった。	2				
				ベスト4以内の成績を取めた部が2部未満であった。	1				
(3) 学年指導	学年努力目標の具現化	3年	家庭学習の習慣を定着させる。	各教科と連携し、課題や教材を工夫して家庭学習の方法を具体的に指導する。併せて生活と学習の記録を記入させ、60分以上の家庭学習を習慣化させる。	目標家庭学習時間に達成した生徒が60%以上であった。	4	年度末に実施	○	
					目標家庭学習時間に達成した生徒が50%以上であった。	3			
					目標家庭学習時間に達成した生徒が40%以上であった。	2			
					目標家庭学習時間に達成した生徒が40%未満であった。	1			
		2年			目標家庭学習時間に達成した生徒が60%以上であった。	4	年度末に実施	○	
					目標家庭学習時間に達成した生徒が50%以上であった。	3			
					目標家庭学習時間に達成した生徒が40%以上であった。	2			
					目標家庭学習時間に達成した生徒が40%未満であった。	1			
		1年			目標家庭学習時間に達成した生徒が60%以上であった。	4	年度末に実施	○	
					目標家庭学習時間に達成した生徒が50%以上であった。	3			
					目標家庭学習時間に達成した生徒が40%以上であった。	2			
					目標家庭学習時間に達成した生徒が40%未満であった。	1			
(4) 農務部指導	プロジェクト学習を基本とした学力技術力の向上	農務	実験・実習及びプロジェクト学習の指導を強化し、自発的な学習態度を養う。	農ク年次大会や各種大会に参加させ、6種目以上の最優秀賞をめざす。	最優秀賞の獲得が6種目以上であった。	4	○		
					最優秀賞の獲得が5種目であった。	3			
					最優秀賞の獲得が4種目であった。	2			
					最優秀賞の獲得が3種目以下であった。	1			
	資格取得の推進	農務	日本農業技術検定を推進し、スペシャリストとしての職業観を養成する。	日本農業技術検定3級の合格率80%以上を目指す。	3級合格率80%以上であった。	4	年度末に実施	○	
					3級合格率70%以上であった。	3			
					3級合格率60%以上であった。	2			
					3級合格率60%未満であった。	1			
(5) 読書指導	読書活動の推進	図書	読書環境を整え、読書をする習慣を定着させる。	朝の10分間読書を支援し、図書館への入館回数をのべ8000人以上とする。	年間入館者数がのべ8000人以上であった。	4	年度末に実施	○	
					年間入館者数がのべ7000人以上8000人未満であった。	3			
					年間入館者数がのべ6000人以上7000人未満であった。	2			
					年間入館者数がのべ6000人未満であった。	1			
					年間入館者数がのべ6000人未満であった。	1			
(6) 生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒指導	高校生としての基本的な生活習慣を身に付けさせ、遅刻の減少を図る。	登校指導を実施し、遅刻者数を1日平均0.8名以下を目指す。	遅刻者が1日平均0.8名以下であった。	4	○		
					遅刻者が1日平均0.9名以下であった。	3			
					遅刻者が1日平均1.0名以下であった。	2			
					遅刻者が1日平均1.0名より多かった。	1			
	生活環境と学習環境の整備	全職員	健全な生活環境と学習環境の整備に努める。	礼儀やマナーを向上させるため、始業時・終業時の挨拶と入室の仕方がきちんとできるようにする。	授業時の挨拶と言葉遣い及び入室の仕方が全体的にきちんときた。	4	○3.3	○3.2	
					授業時の挨拶と言葉遣い及び入室の仕方が一部の生徒で完全ではないながらも大方できた。	3			○3.2
					授業時の挨拶と言葉遣い及び入室の仕方が完全にできる一部の生徒を除きあまりできなかった。	2			
					授業時の挨拶と言葉遣い及び入室の仕方がほとんどの生徒ができなかった。	1			

昨年評価なし

○3.2

評価項目	具体的項目	担当	目 標	具体的方策	評価基準	中間評価	総括評価			
(6) 生徒指導	交通モラルの向上	生徒指導	交通社会の一員としてモラルの向上に努める。	自転車盗難防止のため、自転車の二重ロックの調査を学期1回以上実施し、自転車通学生の二重ロック率95%をめざす。	自転車の二重ロック率が95%以上であった。	4	○	○		
					自転車の二重ロック率が93%以上であった。	3				
					自転車の二重ロック率が90%以上であった。	2				
					自転車の二重ロック率が90%未満であった。	1				
(7) 教育相談	いじめのない環境づくり	全職員	いじめ問題について、その重大性を全教職員で認識し、一致協力した指導体制のもと実践に当たる。	日頃から学習活動やHR活動など学校生活全般において生徒の動向に注意を払い、いじめの未然防止及び早期発見・早期解消に努める。	いじめの兆候や訴えに対し、正確かつ迅速に、関係者と一致協力して解消に当たった。	4		○3.4		
					いじめの兆候や訴えに対し、関係者と協力して解消に当たった。	3	○3.4		○3.3	
					いじめの兆候や訴えに対し、いじめと認識し対応したが、協力体制はとらなかった。	2				
					いじめの兆候や訴えに対し、いじめと認識せずに対応し、報告もしなかった。	1				
		教育相談	学級担任および関係者との連携を密にして、悩みを抱える生徒の早期発見・早期解消に努める。	いじめ・悩みのアンケートを年3回実施し、担任および関係者と連携して対象生徒の面談を実施し、関係者会議を開く。	関係者と連携し、早期発見・早期解消が十分にできた。	4			○	
					関係者と連携し、早期発見・早期解消がおおむねできた。	3	○			○
					関係者との連携が不十分で、早期発見・早期解消ができなかった。	2				
					計画通り実施できず、早期発見にも効果が上がらなかった。	1				
(8) 進路指導	進路実現に向けた取り組みの充実	全職員	基礎基本の徹底と主体的な学習習慣の定着を図るため、家庭学習を徹底する。	各授業において、課題を与え家庭学習を定着させる(ただし実習・実技系は除く)。	小単元ごとに課題を与え、未提出者がなくなるよう指導した。	4		○3.0		
					大単元ごとに課題を与え、未提出者がなくなるよう指導した。	3	○3.3		○3.1	
					課題は与えたが、未提出者がなくなるまでの指導には至らなかった。	2				
					ほとんど課題を与えることはなかった。	1				
		進路	適切な進路情報をタイムリーに生徒・保護者に提供する。	進路情報を収集・整理し、生徒・保護者にタイムリーに提供するとともに担任と連携してHR等で活用する。	タイムリーに提供し、十分活用することができた。	4			○	
					タイムリーに提供し、おおむね活用することができた。	3	○			○
					ほぼタイムリーに提供し、おおむね活用することができた。	2				
					ほぼタイムリーに提供したが、ほとんど活用できなかった。	1				
		農務進路	キャリア教育を推進し、職業観・勤労観を育成する	学校目標に関連した進路に進ませよう努力する。	関連産業への就職および学科関連へ進学した3年生が50%以上であった。	4	年度末に実施		○	
					関連産業への就職および学科関連へ進学した3年生が45%以上であった。	3				
					関連産業への就職および学科関連へ進学した3年生が40%以上であった。	2				
					関連産業への就職および学科関連へ進学した3年生が40%未満であった。	1				
		全職員	各生徒の希望と適性に応じた進路選択をめざす。	個人面談や進路ガイダンス等を計画的に実施し、進路の手引きを効果的に活用して生徒の適性に応じた進路選択を支援する。	生徒の適性に応じた進路選択を十分支援できた。	4	○3.2		○3.0	
					生徒の適性に応じた進路選択をおおむね支援できた。	3				
					生徒の適性に応じた進路選択を十分支援できなかった。	2				
					生徒の適性に応じた進路選択をほとんど支援できなかった。	1				
3年	進路決定率100%を目指す。	添削・面談指導の充実と未決定生徒へのねばり強い支援に努める。	進路決定率100%が達成できた。	4	年度末に実施	○				
			進路決定率90%以上であった。	3						
			進路決定率80%以上であった。	2						
			進路決定率80%未満であった。	1						
(9) 自営指導	就農予定者の適切な進路指導	自営	就農予定者(研修・農大・大卒後兼業含)18名以上を目指す。	農業自営指導の充実及び就農者増に努める。	農大や関係機関等との連携で就農意欲が高まり、就農予定者が23名以上であった。	4	年度末に実施	○		
					農大や関係機関等との連携で就農意欲が高まり、就農予定者が18~22名であった。	3				
					農大や関係機関等との連携で就農意欲が高まり、就農予定者が13~17名であった。	2				
					農大や関係機関等との連携で就農意欲が高まり、就農予定者が13名未満であった。	1				
(10) 健康・安全	健康と安全に関する自己管理能力の育成	保健体育	教育活動時における事故防止に努め、健康・安全管理の徹底を図る。	定期的な安全点検と日常の健康観察の実施。	計画通り実施し、的確に事後指導が行えた。	4	○	○		
					計画通り実施し、おおむね事後指導が行えた。	3				
					計画通り実施したが、的確な事後指導が図れなかった。	2				
					計画通り実施できなかった。	1				

3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協調性に関わる教育的成果の評価

評価項目	具体的項目	担当	目 標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	中間評価	総括評価		
職員研修	教職員の資質向上	研修	職員の研修を計画的・積極的に行う。	校内研修会を計画し実施する。	校内職員研修会を年5回以上実施した。	4	○		
					校内職員研修会を年4回以上実施した。	3		○	
					校内職員研修会を年3回以上実施した。	2			
					校内職員研修会が年3回未満であった。	1			
		研修		3学科・3教科で年1回ずつ研究授業を実施する。	2学期までに計画通り実施し、充実した研修ができた。	4		年度末に実施	○
					一部3学期まで延びたが計画通り実施し、おおむね充実した研修ができた。	3			
					ほぼ、計画通り実施したが、内容に改善の余地があった。	2			
					計画通りの実施ができなかった。	1			

4 教育環境 学校の環境に関わる教育的成果の評価

評価項目	具体的項目	担当	目 標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	中間評価	総括評価	
学校環境の整備	環境美化の徹底	全職員	毎日の清掃活動を徹底し、美化に対する生徒の意識の向上を図る。	美化委員による清掃区域や用具の点検を定期的に行い、清潔な教育環境を作り出す。更に清掃活動強化週間を学期に1～2回実施し、生徒の意識の向上を図る。	学校は掃除が行き届いていて、きれいである。	4	○2.9	
					学校はおおむね掃除が行き届いている。	3		
					学校は掃除が行き届いていない所が数カ所見られる。	2		○2.9
					学校は掃除が十分なされてなく、きれいでない。	1		○2.9

5 開かれた学校づくり 保護者や地域等との連携における教育的成果の評価

評価項目	具体的項目	担当	目 標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	中間評価	総括評価		
保護者や地域との連携	PTA活動等の充実	教務	農業文化祭におけるPTAバザーの保護者の協力を得る。	PTAバザーの協力依頼を各クラスに呼びかけ、のべ80人以上の参加を募る。	農業文化祭のPTAバザー協力人数がのべ80人以上であった。	4	年度末に実施		
					農業文化祭のPTAバザー協力人数がのべ70～79人であった。	3			
					農業文化祭のPTAバザー協力人数がのべ60～69人であった。	2			
					農業文化祭のPTAバザー協力人数がのべ59人以下であった。	1			
		農ク		学校の教育活動に対する地域や保護者の理解を深め、地域に貢献し連携を目指す。	学校の専門性を活かした、高齢者宅訪問や、ミニ動物園、地域との希少植物の保護活動など、地域に密着し連携した活動をおこなう。	学校と地域が連携した活動ができ、年15回の実施ができた。		4	実施できず
						学校と地域が連携した活動ができ、年12回の実施ができた。		3	
	広報活動の充実	研修	定期的に情報発信を行う。	HPを行事毎に更新し、広報紙「諫農だより」も毎月発行する。	HPを行事毎に更新し、「諫農だより」も毎月発行できた。	4	○		
					HPを行事毎に更新し、「諫農だより」はほぼ毎月発行できた。	3			
					HPは行事毎に更新できたが、「諫農だより」はほぼ毎月発行できなかった。	2			
					HPの更新も「諫農だより」の発行も十分できなかった。	1			